

施設内に於ける腰痛の実態調査

～結果から見えてきたものとは～

介護老人保健施設 アゼリア
介護福祉士 田口 真澄

【はじめに】

当施設に設置されている衛生委員会では、職員が安全に安心して長く働ける環境作りを目指している。

活動の一つとして、職員の健康管理及び腰痛に関する実態調査を行っており、介護職員を対象に腰痛の実態調査を行った結果について報告する。

【調査対象者】

常勤及び非常勤 介護職員 52名

【調査期間】

平成26年12月～平成27年1月

【 実施方法 】

* 施設所定の腰痛チェックリストに基づき実施

1. 経験年数、性別及び配属フロアを記載。
2. 主に排泄介助、移乗介助及び離床介助、着脱介助の項目に分けて該当するものに回答する。

【 実施方法 】

3. 職員自身が介助姿勢をどのように認識しているのか回答する。
4. 無理な姿勢を強いられていると感じる介助動作について回答する。
5. 主に腰痛が発生する時間帯を回答する。

【 集計結果 】

1. 平均経験年数：6.6年。

性別や所属の療養棟フロアを問わず、「腰痛有り」や「腰に負担を感じる」に該当すると回答した職員は**全体の約51.5%**にのぼった。

【 集計結果 】

2. 各介助に於いて〔腰に負担を感じる
又は腰痛がある〕に該当した回答数。

- | | |
|--------------|-------|
| ① オムツ交換 | (73%) |
| ② 車椅子⇔便座の移乗 | (62%) |
| ③ ベッド⇔車椅子の移乗 | (53%) |
| ④ トイレ介助 | (45%) |
| ⑤ 浴室内での衣類の着脱 | (40%) |

【集計結果】

3. 職員自身が各介助時の姿勢が
〔不十分又は出来ていない〕に
該当した回答数。

- | | |
|--------------|-------|
| ① ベッド⇄車椅子の移乗 | (70%) |
| ② 車椅子⇄便座の移乗 | (64%) |
| ③ トイレ介助 | (50%) |
| ④ 起き上がらせる介助 | (48%) |
| ④ オムツ交換 | (48%) |

【 集計結果 】

4. 「腰に無理な姿勢を強いられる介助」に該当した回答数。

- ① ベッド⇄車椅子の移乗 (69%)
- ② オムツ交換 (63%)
- ③ トイレ介助 (60%)
- ④ ベッド上での体位変換 (52%)
- ⑤ 浴室内での衣類の着脱 (44%)

【 集計結果 】

5. 「主に腰痛を感じる時間帯」について
多く回答していた時間帯は以下の通り。

- ① モーニングケア終了後
- ② 定時の排泄介助終了後
- ③ イブニングケア終了後



【まとめ】

1. 介護職員の約2人に1人が、腰痛又は腰に負担を感じていると回答。
2. 誰もが腰痛を引き起こす可能性が高い。
3. 腰痛を起こす主な原因は、前屈姿勢や中腰姿勢での介助。長時間の同一姿勢。
4. 介助に要する時間によって大きく影響。

【終わりに】

腰痛による離職予防や労働環境の改善、負担軽減を図っていく為に必要な対策を講じることで、職員が安全に安心して永く働ける環境作りを目指していく。

ご清聴ありがとうございました

